

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1290200011		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら朝日ヶ丘		
所在地	千葉県千葉市花見川区朝日ヶ丘3-9-33 (電話)043-297-3788		
評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業者記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年6月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤7人, 非常勤9人, 常勤換算15人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての1・2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000~55,000円	その他の経費(月額)	35,000円	
敷金	有(300,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	500円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	11名	男性	4名	女性	7名
要介護1	4	要介護2	2		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.7歳	最低	68歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団浄光会 千葉みなと病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘陵地の閑静な住宅地に立地している。和風の2階建てで、玄関も格子の引き戸にし、利用者が自宅に帰ってきたような雰囲気を出している。各部屋の日当たりも良く、スプリンクラーや熱・煙感知器など安全設備も整っている。運営法人の『人が、心が、全て』との基本理念に基き、「暖かい生活の場の提供・互いに認め合える生活・入居者本位のケア・地域住民との交流」を運営方針に掲げている。ホーム長の『自分の家』を言葉に、利用者も職員も皆、家族として生活できるサービスの実現に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の評価で指摘のあった5項目の改善課題<地域との付き合い・評価の意義と活用・運営推進会議を生かした取組み・職員を育てる取組み・災害対策>については、評価を活かした取組みがなされ、改善されている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 昨年初めて外部評価を受けた。評価の内容等を踏まえ、今後とも重点事項として、地域との交流・運営推進会議の活用などについて取り組んでいく考えである。今年もユニット会議で話し合い、ユニット毎に職員の記入できる箇所は各自が記入し、自己評価を行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 昨年の評価を受けた後、10月25日に第一回運営推進会議をホームのファミリールームで実施した。自治会長、民生委員、市職員、地域包括の方々に出席いただいた。地域との交流、きららの年間行事の紹介、避難訓練、災害対策などを議題として2ヶ月に1回開催している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会時に介護記録を見ながら近況報告をしている。毎月請求時に写真2枚を添えて近況報告している。特変時にはホーム長が即刻連絡している。家族懇親会を年2回実施している。面会時などに家族の意見・要望などをよく聴くようにしている。また、意見箱を設置するなどいろいろな方法で、家族からの意見要望に対応するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に入っており、昨年度は班長も勤めた。町内運動会に「きらら」の席を設けていただき、利用者共々参加した。子供神輿をきららの前に止めていただいたり、子供会の餅つき大会に参加する等、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の『人が、心が、全て』との基本理念に基き、「暖かい生活の場の提供・互いに認め合える生活・入居者本位のケア・地域住民との交流」を運営方針に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長は、『自分の家』を合言葉に、「利用者も職員も皆、家族」であるとの共通意識を醸成している。ユニット会議や日々の申し送り時などに常に話し合い、理念・運営方針の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、昨年度は班長も勤めた。町内運動会に「きらら」の席を設けていただき、利用者共々参加した。子供神輿をきららの前に止めていただいたり、子供会の餅つき大会に参加する等地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年初めて外部評価を受けた。改善を指摘された地域との交流・評価の活用・運営推進会議の活用などについて評価を活かし改善に取り組んでいる。今年もユニット会議で話し合い、ユニット毎に職員の記入できる箇所は各自、自己評価を記入した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年の評価を受けた後、10月25日に第一回運営推進会議をホームのファミリールームで実施した。自治会長、民生委員、市職員、地域包括の方々に出席していただいた。地域との交流、きららの年間行事の紹介、避難訓練、災害対策などを議題として2ヶ月に1回開催している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>自治会の役員に市の福祉厚生部OBの方が居られ、ホームや利用者の状況をよく見ていただき、アドバイスをいただいている。市主催の研修会には必ず出席している。介護保険での質問を随時するなど市の担当者との連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に介護記録を見ながら状況報告をしている。毎月請求時に写真2枚を添えて近況報告している。特変時にはホーム長が即刻連絡している。預金出納帳に確認印を頂き、金銭管理をしている。</p>		<p>休刊中の「きらら朝日ヶ丘通信」を発行する予定があるとの事である。ホームでの利用者の暮らしぶりや行事案内とともにスタッフ紹介もしたいとのことであり、是非実現されることを期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族懇親会を年2回実施している。面会時に家族の意見・要望などを良く聴くようにしている。訪問帳のところに意見箱を設置するなど家族からの意見要望に対応するようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>この1年でホーム長が2人交代するなど職員の異動が多くあった。交代の連絡がギリギリであることが多く、利用者不安を抱かすこともあった。又、家族への連絡も遅れることが多くあった。</p>		<p>社内の都合などによる異動を必要最小限に抑える努力を期待したい。又、離職などで止むを得ず交代する場合も利用者へのダメージを少なくするよう、新任職員のフォローや引継ぎに十分配慮することが望まれる。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任職員には、先輩職員がOJTシートで確認しながら指導している。中途採用者研修、スキルアップ研修、リーダー研修など社内研修制度がある。市と県のグループホーム連絡会主催の外部講習などにも参加している。受講者の報告により研修内容の共有化を図っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県と市のグループホーム連絡会に加入し、他のホームを見学したり他のホームからの見学も受け入れている。社内では、ホーム長会議・リーダー研修が法人の各ホーム持ち回りで毎月行われ、相互の見学の機会にもなっている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>面談時に利用者からのヒアリングと共に、センター方式を活用し、利用者のこれまでの生活歴などを家族に記入していただいている。特に入居1・2週間は、利用者の行動や発言に注目し、職員同士で情報を共有し、当初入手した情報と照らし合わせながら、一日も早く慣れ親しんでいただくよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、毎朝の掃除を利用者と一緒をしたり、食材の買い物から食事作り・後片付けなどを一緒にしている。元シェフの利用者に食材の選び方、味付けや調理法などを教えていただいている。人生の先輩として結婚相談に乗っていただき、無事結婚した職員もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや意向は、入居時に本人や家族から聴取するほか1～2ヶ月の間に集中的に状況の把握に努めている。家庭での生活様式の情報は特に大切にしており、例えば毎日ビールを飲んだり、朝食で、1人だけパン食にするなどの要望に応えている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス計画は、一人ひとりの目標や1日の日課を細部にわたり記入するなど適切に作成されている。入所時のアセスメントは、新規入所者を中心にセンター方式によるフェスシート等で作成、他の利用者も順次作成しつつある。ケース記録は時間刻みでサービスの内容等を具体的に明記している。</p>		<p>利用者の状況をより綿密に把握し、サービスの向上につなげるために導入したセンター方式による全入居者のシートづくりを早い時期に完成させ、日常的に計画書の作成やケアに活用することを期待する。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>サービス計画のモニタリングは、月に1回行っている。これらの結果を踏まえて必要とするケースについて、家族を含め関係職員によりサービス会議を開き計画の見直しを行っている。心身の状況低下により急遽変更したものはないが、むしろ入所後に介護度が軽くなった利用者の計画変更が目にとまる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療機関への通院については、突発の場合には家族とともにスタッフも赴くこともある。今後、他の機能を利用したサービスとして福祉用具の活用などが課題であると考えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の往診医は本年6月に交代。月2回施設を訪問してもらい、健康上の助言をもらっている。ことに、救急車の手配まで相談に乗ってもらうなど連携は密である。家族には、診察に立ち会ってもらったり、面会の折などに病状等の説明をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの取り組みはできない方針で対処している。入所相談の折には、この方針を伝え了解していただいている。入居後、医療行為を要する状況になった時には、この考えに沿って入院等について、家族や往診医と相談し対処している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の扱いは、契約書、入所時の説明などにより、具体的に説明している。プライバシーの観点からは、写真撮影についても本人の了承を得たり、記録にあたっては留意している。言葉づかいやトイレの介助等はさりげなく羞恥心に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は、掃除、買い物、昼食、昼寝、入浴、くつろぎの時間、TV、歌、食事の準備など、1人1人のタイムスケジュールのなかで柔軟な生活をしている。散歩は極力行い、食事は、ゆっくりすることとし、ケースによっては1～2時間かける者もいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食職員が数名の利用者ととともに調理している。他の利用者も配膳、下膳の手伝いをしている。食事は食堂において、利用者とともに職員も介助しながら一緒に行っている。また、ユニークな考えとして職員がほかのユニットの食事に参加し交流している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の設備は、ユニットごとに新しく明るいタイプの浴室になっている。入浴は、2～3日に1回順番に行っている。職員は、利用者ごとに決めてある介助方法に基づきケアをし、かつ、声掛けなどにより、利用者が楽しいひとときになるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	確実にできることはしてもらう考えのもとで、利用者は、役割を担っている。ランチョンマットの掃除に専念する者や料理を教えるコック経験者もいる。歌、トランプ、カルタ等は、自然発生的に自由に行っている。		利用者のその人らしい暮らしを続けるための支援は、各所に見られるが、利用者がどこまでできるか、よく判断の上、役割や趣味活動に励む機会を増やし、さらに、この分野での支援の充実を期待する。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は食事の材料購入のための買い物や近所の散歩が主である。遠出は、年間行事予定に組み込まれ、お花見、近隣公園へのドライブ、花の美術館の見物など適時行っている。ファミレス、外食も楽しみの一つである。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケア方針を持っており、日中玄関の鍵はかけてない。玄関、引戸に鈴をつけ入居者の出入りが判るよう工夫している。徘徊する者が、帽子をかぶりだすと必ず外出する等よく癖を把握している。居室の鍵は自由である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防設備については、スプリンクラー、煙、熱感知器、消火器などを設け、消防署や運営推進会議時に点検してもらい、施設運営の現況をよく説明し、指導を仰いでいる。自衛消防訓練は年1回ほど行い、地域の合同訓練にも参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は季節の材料を吟味し、ユニットごとに毎週献立を作成している。週間経過一覧表に摂食量と水分補給が明かにされている。調理にあたっては、個々の体力に合わせ、刻み食、ゼリー状の補食、調味料の好みなどを配慮した工夫がみられる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築間もない建物のため、外観、屋内とも明るくまた各所にバリアフリーの工夫がされている。リビング等の床や家具は木製のものをういたり、室内の壁には、数多くの小さな額入りの絵を飾るなど落ち着いたのある住処になっている。玄関前にベンチを置き季節の花の鉢を置くなど良い環境を作り上げている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は明るい。洗面台・鏡・クロゼット・エアコンは備え付けてある。ベットを始め家具等の持ち込みは自由である。筆筒、いす、テレビ、こたつ、写真、マリア様などを持ち込みそれぞれ個人の好みや慣れ親しんだ家庭での生活に配慮した工夫をしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。